

エヒロ 後藤雅晴 社長の

連載
ここに注目!!
プラリサイクル(2)



などは一部でプラスチックラップの輸入を再開しているが、当該国のメーカー直納などの条件がある。

私どもは、国内外の需要家企業と直接協議して、どのような品質、物性が必要なのかというところをもとに加工する。高品質の再生ペレット加工ができるよう

行方専門のリサイクル企業に出荷していた。これで、フレックとペレットという二つの加

良品の市場は全世界

フレックとペレット
私どもの排出事業者への使用済み硬質PE、PPの分別提案が広がり、それらを粉碎、洗浄してフレック(破

る。
フレック加工は2016年から始めた事業で、フレックについて再生ペレット加工をする設備も導入した。

その後、フレックの品質管理などのノウハウを蓄えてきたが、国内外の資源循環の状況変化を睨んで、昨年末、粉砕・洗浄設備の後段

工が可能になった。この意義は大きい。中国はプラスチックの輸入を行わなくなつたが、再生ペレットについては樹脂の種類に

要がある。東南アジア
あらゆる国の需要を探る
もう一つの隠れた

「市場」が米国だ。

米国の再生プラスチック市場は複雑だ。米国は、一部の樹脂については東南アジアに輸出しているが、逆にPPスクラップなどは輸入してお

り、加工費や輸送費を加えても買い手がつかう。日本やアジア、米国の現時点ではフレックの形態で購入してくれるため、再生ペレット加工の費用がかからない。

ただし、東南アジアに比べて、輸送費がかた。再生ペレットに加工を分けられるのがポイント